

令和7年度 学校に関するアンケート【保護者】 結果概要

1. 実施について

- (1) 実施時期 令和7年10月31日～11月17日
- (2) 対象 保護者全体
- (3) 実施方法 Google フォーム用いたアンケート調査
- (4) 設問数 11項目
- (5) 回答項目 「A よくあてはまる、B あてはまる、C あまりあてはまらない、D まったくあてはまらない、E わからない」の5項目

(4) 回答率

	回答率	前年度比
小学部	82.0%	+16%
中学部	75.8%	-2%
高等部	49.6%	+2%
合計	70.1%	+7%

(5) 分析方法

ABの回答を肯定的意見、CDを否定的意見として分析

2. アンケート項目について

昨年度の運営協議会での意見をふまえ、項目の文言をわかりやすいよう一部変更

「学校は、子どもの将来の進路や職業などについて、発達段階や実態に応じて、適切な指導や助言を行っている。」

⇒「学校は、子どもの将来の進路や職業について、発達段階に応じてわかりやすく伝え、必要な学習や体験を行っている。」

「学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」

⇒「学校は、いじめに関する相談や対応の体制が整っており、子どもが困ったときには適切に対応できるようにしている。」

3. 結果と分析

- ・回答率は、昨年度より、7%増(小学部で16%増)
- ・肯定的評価の全体平均：83.2%（前年度比+5.8%）

多くの項目で8割を超える評価となり、全体として保護者の学校評価は総じて高い結果となつた。

〈特に評価が高い項目〉

- 7.「学校は、教育情報について、提供の努力をしている。」(89.0%)
- 8.「授業参観や学校行事で学校の様子を知ることができる」(94.7%)
- 2.「教職員は日常の教育活動で子どもの人権を十分に尊重している」(89.7%)
- 3.「学校の児童生徒指導の方針に共感できる」(91.3%)

授業参観・行事、配布物、発信(通信、HP等)を通して、学校での様子が保護者に伝わっていることが読み取れる。また、学校の指導方針に共感をしていただき、「子どもを一人ひとり大切にする姿勢」が保護者に実感として伝わっていると考えられる。

〈前年度から大きく改善した項目〉

- 4.進路・将来に関する指導:78.3%(+14.8%) 「わからない」:15.6%(-5.7%)
- 5.いじめに対する学校の対応:62.0%(+8.6%) 「わからない」:34.2%(-9.4%)

4.5の項目ともに、昨年度より項目の文言を変更しており、前年度からの単純な比較はできないが、どちらも前年度より大きく改善がみられる。教職員の回答結果では、「進路指導(95.7%)」「いじめ対応(89.4%)」の項目とも、高い肯定的評価となっている。「わからない」の回答も減少しており。学校の取組が保護者に伝わりはじめていると考えられる。今後も継続的な周知や、周知の工夫を行っていく。

〈課題の見られる項目〉

- 2 授業の分かりやすさ・楽しさ:69.6%(-3.4%) 「わからない」:22.8%

肯定率は約7割で、一定の評価は得られているが、前年より低下している。「わからない」が2割を超えており、保護者が授業の実際を判断しにくい状況が続いている。子ども自身が授業についてどう感じているかを表現することが難しいことも考えられる。